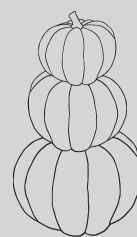


女性部

251020号



かわら版



2025

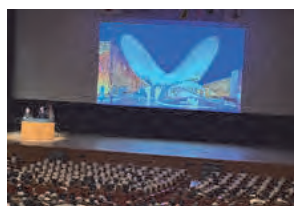
10

版316

第67回 建築士会全国大会 おおさか大会 開催報告

令和7年9月19日、第67回建築士会全国大会「おおさか大会」がグランキューブ大阪にて盛大に開催されました。2025年 大阪・関西万博の開催が控える特別な年に、時宜を得た開催となりました。記念講演には、大阪・関西万博でドイツ館とクウェート館のデザインを担当されたクリスチャン・サンダー・チャージッヒ氏が登壇されました。設計者ご本人から貴重なお話を伺うことができ、大変有意義な時間となりました。

大会式典の様子



次回の第68回大会は、令和8年10月16日に群馬県で開催される予定です。

再来年は、香川県で開催予定です。

環境部会セッション

都市の建築ストックを活かし災害に強い街をつくるには”をテーマに、阪神・淡路大震災から30年経過した今、これまでの再生事例を振り返りつつ今後何をすべきかを検証した。そのうち芦屋市若宮地区の被災後の復興を例にとる。当初行政から示された復興案は「住民を効率よく箱詰めしよう」的なもの。当然住民は猛反発。まちづくりコンサルタントや建築家の力を借りて納得できるまちづくりを進めることを決意。結果「路地」や「開放的な階段」をうまく取込むことで、ひと気のある風通しの良い街、新しさと懐かしさのある街の再生を実現した。勿論実現のためには行政と共同で進めていくことが必須、そこにかなり苦労もあったよう、しかしその街に望ましい住環境なくして本当のまちづくり出来ない、とつくづく感じた。

山口支部 Aさん

街中（空き家）まちづくりセッション

今回、建築士としての関わり方が異なる3つの事例を聞き、この問題について理解を深めることができました。

松江市中心市街地にある商業地の事例で印象に残ったのは、まず[まちづくり構想について全員が意見を出し合う]その後[個々の行動をまちづくり全体のビジョンと捉え全員で共有する]というプロセスを繰り返すことで、徐々に個人の意識が「我が事」から「私たちの事」へと変化した、という点です。

また各構想を視点ごとに分類し、更にそれらを5年以内に[実現すること]と[実現を目指すもの]に分けることで、実現のための方法や役割が明確になり、驚くほどのスピードで実行されているところに感銘を受けました。具体的な手法にも詳しく知りたい内容がたくさんあり、ぜひ機会があれば実際の様子を見学したいと思いました。

下関市 Yさん

女性委員会セッション



8つの違う視点(テーマ)で、話合うワークショップでしたが、私が選んだ視点は、「建築士の認知度向上」でした。同じテーブルに座った7〜8名の仲間と、その為に、何ができるのか?について、意見やアイデアを出し合い、班でまとめたものを最後は他の班に発表しました。一般の人に、もっと建築士の仕事を知ってもらう為には、地域貢献の必要性、SNS利用、学校への出張授業、イベントを行う時はテレビ局などのメディア取材があると、影響力(集客力)はすごかったなど、他県の取り組みを知ることができた為、とても参考になりました。中でも、「建築業界以外の方との交流をする事が社会での建築士の認知度や地域とのネットワーク構築に繋がる」という意見には、深い共感を覚えました。

下関支部 Sさん



女性委員会セッション「思いっきりバージョンUP! Part3」に参加しました。「建築士会を知ってもらうには」というテーマで、メディア活用や地域散策、防災ワークショップなど、費用をかけずに会をPRする方法を議論。また、会員減少への対策として、資格取得者や子どもたちへの働きかけも報告されました。全国の女性建築士のパワーに触れ、良い刺激になりました。

山口支部 Nさん



街中(空き家)まちづくりセッション

印象に残った松江の商店街の空き家活用では、空き店舗や建物を地域資源と捉え、建築士・商店・行政・町おこし隊が協議会を「共有の器」として連携しており、建物巡りやカラーコード作成を通じて住民が自分事としてまちを意識できるようにし、また、商店や公共空間を「ソフト」と「パブリック」に分類して地図化することで将来像を共有していました。こうした取り組みは空き家活用を単なる建物再生にとどめず、地域全体のコミュニティデザインへと発展させていると感じました。実際に空き家がどの様に活用されているか、機会があれば松江商店街を見に行きたいと思います。

下関市 Hさん



編集後記

全国大会は3度目。支部の表彰者の祝賀会では「まだ若い!」と41の体にムチを打ち、飲んで食べて。食べて。食べて。翌日は万博をしっかりと踏破しました。ご報告!シンガポールパビリオンに、私がお願いした「健康第一」が採用されました。この言葉を胸に、これからも頑張ります!

山口支部 N

【原稿募集中】

原稿の締切: 毎月10日頃

かわら版発送: 毎月20日頃

【原稿の送り先】

kawaraban@y-shikai.or.jp

【かわら版申し込み等】

TEL:083-922-5114

担当: 下関支部



みなさま、いつも大変お世話になっております。山口支部青年部の林です。先日の10/19～20に開催された第67回 建築士会全国大会 おおさか大会に参加してきましたので、報告をさせていただきます。主に19日の青年委員会セッションと記念講演、20日の万博（エクスカーション）に参加しました。

青年委員会セッションでは、全国の各ブロック代表による地域実践活動の発表を聞きました。どの活動も、地域の人々と建築・自然との関わりを深めるものとなっており、建築士会の活動の意義を実感することができました。特に、福岡県さんの木工ワークショップの活動報告の、子どもたちが木の家づくりを楽しんでいる姿や、工作の音に誘われ地域の人たちが集まってくる様子がとても印象に残っています。また、当ブロック（中四国）代表の香川県さんの「瀬戸内海歴史民俗資料館」の魅力発信プロジェクトは、解体の予兆がある公共建築の活用法を創出し、再び地域に愛されている点が高い評価を受け、最優秀賞となりました。山口県にも多くの自然や古き良き建築があるため、これらの活動を参考として、地域と自然・建築をつなげる活動を提案していきたいと感じました。



記念講演では、大阪・関西万博のドイツ館とクウェート館のデザインをされたクリスチャン・サンダー・チャージッヒ氏のお話を聞きました。どちらのパビリオンもデザインされたご本人からのお話を聞くことで、実際に見に行きたいという思いが強くなりました。

大会3日目には大阪万博に参加しました。万博に参加するのは初めてでしたが、万博終了まで残りわずかだったため参加できて嬉しかったです。朝早くからすでに多くの来場者があり、中を見ることができたパビリオンは少なかったですが、ほとんどのパビリオンの外観を見ることができまし

た。どのパビリオンも仮設だからこそ出来る大胆なデザインや、見る人を楽しませるデザインとなっていました。特に印象に残っているのは「null²」という作品で、外壁が音に合わせて波打ち鼓動しており、生命力のようなものを感じられました。また、記念講演でご説明のあったパビリオンも実際に見ることができ、クウェートパビリオンの大きな翼のようなデザインは写真で見ると遥かに大きく圧巻でした。



大会の空き時間には、会場付近の建築物を見て回りました。中之島美術館や、こども本の森図書館、うめきた公園の大屋根など著名な建築物を数多く見ることができました。うめきた公園では多くの人が広場で憩う景色がまるでパースのようで、それほど理想的な利用がされる良い空間になっているのだと感じました。



最後に、この大阪大会を通して建築士会での活動の意義を実感し、自県の活動についても考えることができました。また、万博や建築巡りでは、建築士会の方々と建築についてお話をしながら回ったことで、より密度の濃い経験となりました。たくさん歩き、見て、感じて、自身を大きく成長させる良い経験となりました。